

脳神経外科

【スタッフ】

令和 2 年は医師 3 名体制で変更ありませんでした。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、医局人事にあまり変更がなく、高原医師が 2 年目の勤務となりました。高原医師は、日本脳神経血管内治療学会脳神経血管内治療専門医試験が延期されたため、受験ができませんでしたが、脳梗塞の血栓回収を 9 例行うなど研鑽を積みました。

部長 中村 隆治 (2010.4～)

医長 尾中 貞夫 (2012.4～)

医師 高原 健太 (2019.4～)

【概要】

外来は、予定手術日の木曜日以外は毎日行っております。木曜日でも可能であれば、外来にも対応しております。

当院は 24 時間 365 日脳卒中患者さまを受け入れ、t-PA (tissue-plasminogen activator : 組織プラスミノゲン活性化因子) 静注療法 (血栓を溶かす薬を点滴する治療法) を開始できるなどの要件を満たした日本脳卒中学会が認定した 1 次脳卒中センターです。急患にも対応しておりますのでご紹介ください。

脳神経外科での対象疾患は、脳血管障害、脳腫瘍、外傷、機能的疾患、先天奇形等幅広く多岐に渡っております。最近では、開頭手術症例は減少傾向にあり、血管内治療や放射線治療の症例が増えています。とくに脳梗塞患者が増えており、初期治療として発症後 4 時間半以内であれば、t-PA の投与を行っています。脳主幹動脈の閉塞であれば、血栓回収の適応となり、血管内治療を行っております。また、適応があれば、頸動脈内膜剥離術や内頸動脈ステント留置なども、積極的に取り組んでおります。内膜剥離術は 3 例、ステント留置は 1 例施行しました。

下関市は高齢化率も高く、物忘れを主訴に受診される患者さまが増加しております。治療可能な認知症として、慢性硬膜下血腫や正常圧水頭症などが知られており、当科でも治療にあたっています。水頭症シャント手術後は、物忘れや歩行障害の改善がみられます。

転倒の多い高齢者の方は、ぜひ一度頭部 CT 検査を行ってみてください。

アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症は、認知機能悪化が徐々に進行し、自宅での生活が困難になります。医師だけの努力では解決できないことも多く、ケースワーカーなど他職種と協力しての対応が必要になります。当院ではまだ認知症の対応が十分ではなく、地域社会で高齢者を支えていけるような取り組みが必要と考えております。

また、脳卒中後の痙縮に対しても、ボトックスやバクロフェンなどの使用により、ADL (日常生活動作) 改善につなげたいと考えておりますのでご相談ください。

【診療実績】令和2(2020)年1月～12月

1. 入院症例：380例

2. 手術症例：67例

内訳)

脳腫瘍	10例
脳動脈瘤クリッピング(破裂8例、未破裂1例)	9例
血腫除去術	3例
内頸動脈内膜剥離術	3例
急性硬膜下及び外血腫	1例
慢性硬膜下血腫	27例
水頭症(脳室腹腔シャント術等)	3例
その他	11例

3. 血管内手術：17例

内訳)

脳動脈瘤コイル塞栓術(破裂1例、未破裂3例)	4例
脳梗塞急性期 血栓回収術	9例
頸動脈ステント留置術	1例
経皮的血管拡張術	3例

今年には新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学会などの発表はありませんでした。